

# 私たちの平和宣言



▲手賀沼公園にある「平和の記念碑」、「平和の灯」、「陽光桜」



「平和の灯」の傍に「陽光桜」を植樹する

我孫子市原爆被爆者の会の皆さん（2016（H28）.1.15）



私たちは広島に行く前、戦争や原爆についてわかっているつもりでした。

しかし、広島で三日間を過ごし、戦争や原爆の本当の恐ろしさを改めて感じました。今、当たり前前の生活ができていること、これは「幸せ」だとしか言いようがありません。

1945年8月6日、朝までは広島の人々も、当たり前前の生活を送っていました。そこに、たった一発の爆弾で、すべてが、奪われてしまったのです。

あの日、広島で起きたこと、その事実を知ることが、平和への第一歩だと思います。私たちは、広島に行き、感じた、たくさんのことを、伝えていく伝承者にならなければいけません。

これから、リレー講座などで、自分たちが目で見、耳で聞いて感じたことを、伝えていく、これも、平和への第一歩だと思います。私たちが広島に行って、体験できたことに感謝し、たくさんの人たちにあの日起きたこと、私たちが感じたことを伝え、平和を願い活動していきます。

平成 30 年度広島派遣中学生

我孫子中学校 2 年 山森 悠生、大橋 結花



私たちは今回広島へ行き、沢山のことを学び、感じることができました。

73年前、日本も戦争をしていたという事実は知っていても、本当に体験された方の思いや実際に被爆した建物など、広島に行かなければ知ることのできないものが沢山あり、とても貴重な経験になりました。

そんな中、私たちが一番印象強く残ったのは、「命を大切に」という言葉です。これは式典や資料館、体験講話などさまざまなところで耳にしました。「命を大切にする」と口で言うことは簡単でも、まだ戦争をしている国もあり、日本にもいつ爆弾が落とされるかわかりません。

今回、私たちが学んできた戦争の恐ろしさや命の尊さを、家族や友達など周りの人から伝えていき、戦争は二度と繰り返してはならないと感じられる人が増え、次の世代へと繋がるように力を尽くしていきたいと思います。

平成 30 年度広島派遣中学生

湖北中学校 2 年 伊達 龍太郎、根本 茜梨



私たちは広島派遣団として、広島平和記念式典への参列や被爆体験講話などを通して、平和の尊さと戦争のおそろしさを学びました。平和について考えることができた私たちがたくさんの人に伝えること、それが広島派遣団の任務です。

私たちが平和をつくるために、世界の人々へその思いを折り鶴にのせて伝えていきます。さらに家族、友人、そして将来の子供にも伝えていく伝承者の一人になります。

戦争は悲しみと憎しみしか生まない残酷なものです。もう二度と起こしません。そして誰にも起こさせません。私たちが核兵器ゼロの世界を願っても、実現は簡単ではありませんが、それでも私たちの身の回りから、幸せの輪を広げていけば、それが次第に大きくなり、世界中の人が幸せになると信じています。

平成 30 年度広島派遣中学生

布佐中学校 2 年 佐藤 優馬、内平 菜々美



私たちは今回の広島派遣で、平和記念式典の中のこども代表による「平和への誓い」が印象に残りました。

— 平和とは、自然に笑顔になれること。

平和とは、人も自分も幸せであること。

平和とは、夢や希望をもてる未来があること。—

私たちは、世界中のたくさんの人々がこのような思いを持つことができれば、きっと世界は平和になると信じています。

日本が戦争をして、広島と長崎に原爆が投下されてから、まだたった73年しかたっていません。私たちは、今の当たり前な生活が幸せであり、大切にしなければいけない、ということに気付くことができました。今度は私たちが、73年前の事実を色々な人に知ってもらい、他人事ではなく、一人ひとりに責任があることを伝えていかなければなりません。

私たちが未来への伝承者となり、平和のバトンを次の世代へと繋いでいくことを宣言します。

平成30年度広島派遣中学生

湖北台中学校2年 奥山 貴之、菊池 結音



「平和とは、自然に笑顔になれること。人も自分も幸せであること。夢や希望を持てる未来があること。」

この言葉は、「こども平和の集い」で世界中のこどもたちが話し合った平和についての言葉です。

平和な世の中にしたいという考えを持つ人は多いと思いますが、果たしてどれほどのひとが、平和とは何かを考えているのでしょうか。

私は今まで「平和」という単語を知っただけでした。つまり、意味や言葉の重みをあまり感じていなかったのです。単語を知っただけでは平和になることはできないと、派遣で広島を訪れて思いました。

今回自分自身が広島で感じた、あの時犠牲になった人の思いや、復興の大変さ、心から平和を願う人の思いを多く発信します。小さな点が大きなつながりになるのと同じように、私たちが伝承者となり、地球に住む人、全員の思いが繋がることを願って、活動していきます。

平成 30 年度広島派遣中学生

久寺家中学校 2 年 岡村 朝瑚、松本 周汰



私たちは今年派遣中学生として広島に行き、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の尊さなどを学びました。

広島に行って、特に心に残ったのは、平和記念式典で「平和への誓い」をした、広島のごども代表の言葉です。

「平和とは、自然に笑顔になれること。平和とは、人も自分も幸せであること。平和とは、夢や希望を持てる未来があること。」

この言葉を聞いて、平和な未来を創ろうと懸命に生きてきた広島の人々の思いを、私たちも繋いでいかなければならないと、強く感じました。

今、日本では戦争や原爆を実際に体験した人、語れる人が年々少なくなっています。戦争や原爆は、罪のない人々の命までも、一瞬にして奪い去ってしまう、とても恐ろしいものです。これからは世界中の人々が平和だと思えるように、唯一の被爆国である日本に生きる私たちがその恐ろしさを伝え、様々な活動をしていきたいと思います。

平成 30 年度広島派遣中学生

白山中学校 2 年 早乙女 凜、森 琥太郎